

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)MJR高取**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		評価点		重み係数		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>						<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.5</b>	1.00				<b>3.5</b>
1.1 室内騒音レベル	目標値	3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		5.0	0.50	4.0	0.50				
1 開口部遮音性能	T-2サッシを採用(A-9:メーカーリスト)	5.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	LL-45を採用(A-9:メーカーリスト)	3.0	-	4.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	LH-50を採用(A-9:メーカーリスト)	3.0	-	4.0	0.20				
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.0</b>	0.35	<b>5.0</b>	1.00				<b>4.3</b>
2.1 室温制御		1.0	0.50	5.0	1.00				
1 室温		1.0	0.63	-	-				
2 外皮性能	UA値=0.72、η AC=1.2(省エネ届出書)	1.0	0.38	5.0	1.00				
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00				<b>3.2</b>
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.35				
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.50				
2 方位別開口	南面に窓がある	-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備	昼光利用設備なし	3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.35				
1 昼光制御	庇とカーテンで制御(A-27:短計図)	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度	共用部ラウンジ照度=190lx	3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.29				
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.2</b>	0.25	<b>4.5</b>	1.00				<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆以上の建材をほぼ全面的に採用(A-10:外部仕上表)	5.0	1.00	5.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38				
1 換気量	建築基準法を満たす換気量	3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開放面積を確保(各種計算表)	3.0	-	5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない方向に設置している	3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>						<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.8</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00				<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	住居の各居室にGbit対応(E-13:電話・情報設備系統図)	3.0	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法を満たしている(特定施設事前協議書)	4.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40				
1 広さ感・景観	LD天井高=2.45m	3.0	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-				
3 内装計画	評価する取り組みが2項目	3.0	1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	評価する取り組みが6項目(A-11:内部仕上表A-16~18:各階平面図)	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	評価する取り組みが10項目(A-16~18:各階平面図)	5.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30						<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	基準法に定められた耐震性を有する	3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	揺れを抑える装置を導入していない	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級2(A-03:基本仕様書(2))	4.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ほぼ全てに垂鉛鉄板を採用	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給排水管にB種を採用(M-02:機械設備 凡例・衛生器具表)	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	更新必要間隔15年	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.2	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備	評価する取り組みが一つ	3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスB	3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>							
1	階高のゆとり	階高=3.01m(A-22:断面図1)	3.0	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>							
居室の積載荷重=1,800N/m <sup>2</sup>			3.0	-	3.0	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	中央空調設備をもたない	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕更新できる(M-14:Cタイプ平面詳細)	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材だけでなく仕上材を痛めることなく修繕更新できる(E-04:)	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく修繕更新できる(E-13:電話・情報設備系統)	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新ルートはあるが更新時に維持不能	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースが確保されていない	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			評価ポイントが3	<b>3.0</b>	0.40	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			評価ポイントが2	<b>3.0</b>	0.50	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			評価ポイントが10	<b>3.0</b>	0.50	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			専有部が外皮に2方向面している	<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm]= 0.76	<b>5.0</b>	0.50	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング	取り組みなし	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備ごとの取扱説明書が居住者に手渡されている	3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			節水コマ、節水型便器を採用(添付カタログ)	<b>4.0</b>	0.40	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>3.0</b>	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用の仕組みなし	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等を利用していない	3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.2</b>	0.60	-	-	<b>2.2</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.13	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			-	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			-	3.0	0.25	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			-	1.0	0.25	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.13	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み</b>			3.0	0.25	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			確認していない	<b>3.0</b>	0.30	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>3.0</b>	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0を採用	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	ODP=0を採用	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			LED照明を採用した(E-09:照明器具姿図)	<b>4.5</b>	0.33	-	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			排出基準以下	<b>3.0</b>	0.25	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				<b>2.0</b>	0.50	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>3.2</b>	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水排出抑制対策を実施していない	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	基準を満たしている	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	評価ポイント3(A-16:配置図)	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	評価ポイント3	3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	
1	騒音	規制対象建築物以外	3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	
1	風害の抑制	風害対策に対する要請がない	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制を満たしている	3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>4.4</b>	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価ポイント4(公害対策ガイドライン)	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	対策を行っていない	3.0	0.30	-	-	